

校内研究について

① 研究主題名

UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた学校づくり
～すべての児童が安心して過ごし、学ぶことのできる学校に～

② 研究主題設定の趣旨

北波多地区は、市町村合併以前より「教育と福祉の村」をスローガンに掲げ、児童生徒及び村民の教育に力を注いできた地域である。唐津市に合併後もその理念は受け継がれており、住民の学校教育に対する関心は高く、現在も、児童の体験活動や育成を支援する多種の学校ボランティア組織が、小中学校に積極的に関わってくださっている。

小中学校共に、平成29・30年度の文部科学省の「人権教育総合推進地域事業」をきっかけに、授業の中に「自己決定」や「自己存在感」を高め「共感的な人間関係」をつくるといった視点を取り入れた「人権が尊重される授業づくり」に取り組んできた。

令和4・5年度には県教育委員会の「小中連携による学力向上推進地域指定事業」を受けたことで、本校では児童の「問い」を活かす授業を意識して実践を進め、主体的で対話的な学びの創造をする児童の育成を目指してきた。成果としては、課題に主体的に取り組む姿や、場面に応じて一人で考えたり友だちと話し合ったりする姿が増えたこと、他者の考えを共感的に受け止める児童が増えたことなどを見取ることができた。さらには、小中共通の「対話の系統表」を作り活用することもできた。今後の課題として、学習内容によっては教師主導型の授業が増えてしまい、児童の主体性を引き出しづらくなっていることや、学力向上につながるための学習規律の定着がうまくいかない学級もあること、引き続き読み解く力や書く力の向上を目指したい、ことなどが挙げられた。

これまでの成果と課題をもとに、今年度の研究は「UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた学校づくり」をテーマとし、特別な支援が必要な児童を含むすべての児童が安心して過ごし、学ぶことのできる学校づくりに取り組む。UDの考え方や特別支援教育の基礎的な内容、さらにはUD授業先進事例の研修等を行うことで知識的な側面を向上させる。それらの学びを基礎に、各職員のこれまでの実践を整理し、課題解決に向けた有効な方策を探る。

③ 研究組織（研究推進委員会）

《下学年G》1年・2年・3年・たんぼぼ（情緒）・教務

《上学年G》4年・5年・6年・ひまわり（知的）・児童生徒支援・理科専科

④ 研究内容

- ・UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた授業の実施
- ・児童が主体的に学ぶための方法（教材選定・発問の工夫・対話の方法 等）
- ・人権が尊重される授業づくりの視点（自己決定の場を与える授業・自己存在感を与える授業・共感的な人間関係を育む授業）を取り入れた授業の工夫
- ・北波多小中学校「対話の系統表」の活用
- ・北波多小学校「学びの約束」「学習用具の約束」の徹底・読み取る力を支える読書の推進